

JOMF 派遣医師便り (2016. 6)

◆シンガポール◆

コンピューターの不調に思う

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

先日、コンピューターの不調でシンガポール国内の 9 つのポリクリニックで同時に、受付、検査業務などができなくなり、予約患者を断らなければならない事態が生じました。1 時間ほどで事態は収集しましたが、3 時間待ちがざらだと言われるクリニックですので、患者さんからは大きな不満の声があがりました。

ポリクリニックとは、公営の外来診療所でシンガポール国内に 18 箇所設置されています。これらは、シンガポールの国立病院（シンガポールの場合、国立＝公営です。シンガポールに市や県という行政単位はありません。）に属しています。国立病院はシンガポールジェネラルホスピタルを中心とする病院群とシンガポール大学病院を中心とする病院群の大きく 2 つの系統に分けられており、出先の外来診療所として 9 つのポリクリニックが属しています。一通りの血液検査、尿検査、レントゲン検査も可能で、どこも 2-3 階建てでそれなりに規模が大きく、クリニックというより病院という感じです。それらは、全てオンラインでつながっており、上位の国立病院ともオンラインで結ばれています。ポリクリニックで入院が必要な患者さんが見つかり、上位の国立病院に紹介入院となりますが、データは全て共有できるため、ポリクリニックで行った検査も紹介先の病院ですぐに見ることができますし、紹介した医師も自分が送った患者さんの経過を、ポリクリニックにいながら追うことが出来ます。大変便利なシステムなのです。

ところが、今回一方の系統のコンピューターシステムが不調となり、同時に 9 つのポリクリニックの受付、検査業務が困難となりました。10 数年前から始まったシステムですが初めての大規模不調だとのこと。原因はまだ調査中です。特に、予約となっていた患者に関してはデータや予約内容がわからず、断らざるを得なくなったようです。シンガポールでは日本で言うところの国民総背番号制が施行されて既に久しく、患者の過去の来院歴も ID から全てオンラインで見出せます。大変便利なシステムなのですが、反面、システムが不調となると本人データが見出せなくなってしまいます。混乱は 1 時間ほどで收拾したとのことですが、それでも、多数の患者（数は発表されていない）が影響を受けました。可能な限り、手書きの書類で対応し、緊急性がある方は適宜、他の系統や私立の病院などへ搬送したとのことでした。ポリクリニックは公営で安価であるためか、常に混んでいて、3 時間待ち

ぐらいは恒なので、1時間でもシステムがとまった影響は多大なものがあったようです。

便利さはシステムが正常に機能してこそそのものだということを感じました。そして、昔ながらの手書きのシステムはこうした故障とは無縁だということもあり、紙カルテなどのアナログシステムを使える技量は、ある意味バックアップという形で機能できるため、完全にはなくしてはならないのではないかなと感じました。